

大腸がん検診

大腸がんは、近年、食生活の欧米化の影響によると考えられる原因により、日本人で罹患する人の割合が年々増加しています。大腸がん検診により早期に発見し治療することが大切です。

○対象者は？

40歳以上の方

○受診方法は？

「医療機関名簿」から対応している医療機関に直接電話等で連絡してください。

○検査方法は？

便潜血反応検査（2回法）

○便の潜血反応検査って？

便は、胃、十二指腸、小腸、大腸を通過して肛門から出てくるため、便の検査は、消化管に起こる様々な病気を発見するのに有効だと考えられています。

特に、便の潜血（便に血が混じること）は、大腸の疾患を表している可能性が高く、大腸がん検診として効果的だとされています。

○痔による潜血を大腸がんと間違えることは？

痔は、肛門周囲の病変によって出血する病気です。そのため、痔による出血は便の表面に付くと考えられています。よって、大腸がん検診として便潜血反応検査を行う際は、便の中の方まで検査棒（スティック）を刺して検査用の便を採取することが大切です。

○食事内容による影響は？

以前の便潜血反応検査は、食物中の血液成分と疾病による血液成分の差を判断することが難しく、前日の食事制限がありました。しかし、近年は検査方法が進化し、食事内容には影響されることがなくなりました。

○絶対、2回取らなくてはダメ？

大腸がん検診は「便潜血反応検査を2回」行うことで精度が上がるとされています。

そのため1回の検査結果が陰性でも安心できません。必ず、2回続けて検査することが必要です。